



Jaws レポート 67

Japan Animal Welfare Society

発行人：山下真一郎
編集人：桜井邦広
〃：山口千津子
編集協力：平山企画舎



発行 / 公益社団法人日本動物福祉協会 〒141-0031 東京都品川区西五反田8-1-8 中村屋ビル内 TEL(03)5740-8856 FAX(03)5496-0930 http://www.jaws.or.jp

アニマルシェルター セミナー

ボランティア及び受け入れ側が学ぶべきこと。



仙台会場の様子

講師・田中亜紀先生

ボランティアプログラムを始めよう！

○なぜボランティアが必要か

アニマルシェルター（動物保護施設）
の仕事は、犬の社会化・散歩（82%）、
猫の社会化（80%）、イベント手伝い
(78%)、一時預かり（70%）、犬・猫舎の
掃除（69%）、資金集め（67%）、動物愛
護教育、受付業務、リサイクルショップ
運営等。

多くのボランティアを非常に役立つ不可
欠な存在と認識している。

○ボランティアの仕事

アメリカの施設におけるボランティア
は、行き場を失った地域の動物たちを收
容し、地域に送り出すので、地域のサポ
ートが必要であり、シェルタースタッフの
多くはボランティアを非常に役立つ不可
欠な存在と認識している。

○ボランティアのもたらす効果

動物福祉の向上・動物の健康の向上・
地域に根付いた動物譲渡事業実施・
施設のイメージアップ。明るい雰囲気
が作れる・職員が職務に専念できるとい
うことが、施設全体の機能の向上につな
がる。

ボランティアプログラムを作り・職員が職務に専念できるとい
うことが、施設全体の機能の向上につな
がる。

ボランティアプログラムを作り・職員が職務に専念できるとい
うことが、施設全体の機能の向上につな
がる。

ボランティアプログラムを作り・職員が職務に専念できるとい
うことが、施設全体の機能の向上につな
がる。

○オリエンテーション

複数の人が話し、来た人を気持ちよく
迎える。プログラムを明確に説明する。
安樂死の判断など、感情的な部分を明確
にする。ボランティアをする利点を説明
し、施設を案内してボランティア申込用
紙を配布する。

ボランティアのスクリーニング
には、直接あるいはオリエンテーション時の
面接が必要である。ボランティア

の仕事は、犬の社会化・散歩（82%）、
猫の社会化（80%）、イベント手伝い
(78%)、一時預かり（70%）、犬・猫舎の
掃除（69%）、資金集め（67%）、動物愛
護教育、受付業務、リサイクルショップ
運営等。

線を明確に伝え、トレーニングをして、
成果を分かち合い、感謝してチームの一
員であることを意識してもらう。

○施設の目的にあつたボランティア

施設全体の目標（譲渡数のアップ？、
処分数の削減？、動物福祉の向上？、疾
病数の削減？、愛護活動？）を明確にし、
スタッフ全員で話し合う。簡単なことか
ら始めてもらい、ステップアップ。楽し
くできるように、動物にタッチしなくて
よい。

○マニュアルの作成

内容：所長の挨拶・ボランティアプロ
グラムのミッション・シェルターのミッ
ション・シェルターの成り立ちや業績・
シェルターの業務・シェルターの方針・
安樂死について・営業時間・シェルター
の組織図・シェルターの統計数値・ボ
ランティアの役割・ボランティアの責
任・スケジュール・守秘義務・ドレスコード・怪我した時・苦情・メディア対応・
ボランティアを辞める時

○ボランティアを入れたことによる効果をデータ化

ボランティアの数・ボランティア時間・
一時預かりの数及び一時預かりからの譲
渡数・ボランティアによる譲渡会の開催

疾患率の変動・問題行動の発生変動

◇主な内容◇

アニマルシェルターセミナー要旨	1	2
東日本大震災動物救援活動（協会の取組み）	3	4
支部だより（新東京支部）	5	6
（矢野顕子）ねこの日記（番外編④）	7	8
動物との共生を考える連絡会から	9	10
ヒューメインセンター・ジャパン事業報告	11	12

環境省・動物愛護管理のあり方について検討小委員会	1	2
動物愛護週間中央行事「動物愛護シンポジウム」要旨	3	4
秋の叙勲ご報告・理事会レポート報告	5	6
捨て犬・捨て猫防止キャンペーン中間報告他	7	8
寄付者ご芳名／事務局から	9	10
ジョーズジュニアコーナー	11	12

次号は4月発行の予定です。

観察と申込書で判断する。施設の目
的についたボランティアだけを採用。
不合格通知を出す。主導権は施設側
にあることを忘れずに。

●ボランティアトレーニング
・スクリーニング後、初めてボランティ
アトレーニングをし、終了後仕事開始。
トレーニングの目的はボランティアが
効率的に的確に常時職員に依存せずに
仕事ができるようになるためである。
トレーニングの基本事項は、動物行動
学の基礎・ハンドリングの基本・ボラ
ンティアの安全・動物の安全・シエル
ターメディシンの基本・境界線（ボラ
ンティアができること・やつてはいけ
ないこと・触れる動物と触れない動物
等）・ルールやボランティアとして期
待すること・利点

・仕事内容を明確にし、文書にする
・扱う動物に関する説明をし、シェル
ター環境とは動物にとってストレスで
あり、問題行動や疾患も存在すること
を認識してもらい、感染症の伝播を防
ぐ基本をしつかり教える。それぞれの
ボランティアが受けたトレーニングを
記録する。
・プログラム
・問題行動や疾患も存在すること
を認識してもらい、感染症の伝播を防
ぐ基本をしつかり教える。それぞれの
ボランティアが受けたトレーニングを
記録する。
・マニュアルの作成
・内容：所長の挨拶・ボランティアプロ
グラムのミッション・シェルターのミッ
ション・シェルターの成り立ちや業績・
シェルターの業務・シェルターの方針・
安樂死について・営業時間・シェルター
の組織図・シェルターの統計数値・ボ
ランティアの役割・ボランティアの責
任・スケジュール・守秘義務・ドレスコード・怪我した時・苦情・メディア対応・
ボランティアを辞める時

●ボランティアの安全

攻撃的・不安・人慣れしていない動物やズーノースの可能性のある動物、身体的負担、咬まれる・引摺かれる、滑りやすい床、注射針や薬、血液や病原体から守る。

●ボランティアコーディネーター

ボランティア・トレーニング・プログラムを管理し、スタッフとボランティアの架け橋となるので、プログラムの基盤

シェルターでボランティア

ここからいよいよシェルターでボランティアをするについてのお話になります。

●シェルターに来る動物たち

- 犬の場合 捕獲された犬たちと引き取られた犬たちがいるが、引き取られた犬たちは5歳以下の若い犬が多く、手放された理由としては近所の苦情、病気、吠え癖、咬み癖、引越し等がある。
- 猫の場合 連れてこられる猫の約8割は子猫で、すぐに一時預かりボランティアの下に預けられる。引き取り理由としては、引越し・子猫を生んじやつた・近所の苦情・アレルギー・問題行動等がある。

●ボランティアの役割

- なるべく多くの命を救うために、動物の譲渡性をあげること。それには、動物的魅力にかわいく見せ、「飼いたい」と思わせる。
- 「飼いたい」と思わせる動物の行動には、(犬)前に来て挨拶する・人が来たら尻尾を振る・静かにお座り、(猫)人が来たら寄ってくる・遊ぶを誘う等がある。
- 限られた環境の中で、犬や猫が本来の生活をなるべくできるようにし、動物たちの快適度を上げ、精神的刺激を与えて、ストレスを下げ、病気・問題行動を減らす。
- 新しい家族との出会いと譲渡(適材適

である。

●ボランティアの維持に必要なこと

ボランティアの機能を最大限にし、生産的な仕事を提供する強力なボランティアプログラムがボランティアのやる気を上げる。

そのためには、メール・ニュースレターやミーティング等によるコミュニケーションが重要。ボランティアのおかげで変化したことを伝える。勉強会やさらなるステップアップの機会を与える。

●ボランティアの維持に必要なこと

ボランティアの維持に必要なことの重篤度は別問題。

群管理では予防第一。感染症対策には負傷・罹患動物にもワクチン接種し、衛生管理、ストレス管理に力を注ぐ。

猫のウイルス性鼻炎や問題行動の下痢や問題行動の多くはストレス

所の譲渡を促進する。

●シェルターの動物たちはストレスに晒されている

- シェルターに来た動物たちは、今までとは全く違う生活や見ず知らずの動物との共同生活で、ストレス・不安・恐怖がいっぱい。
- ストレスの原因には、飼い主から引き離された知らない場所・知らない人に干渉される・寝床やご飯が違う・逃げ場所がない・運動ができない・うるさい・怖い等が挙げられる。
- 動物たちがストレスによる病気になつたり、問題行動を起こしたりすると、譲渡性が下がる。ここにボランティアの力が重要になる。

●シェルターでの動物管理

- 一般家庭とは異なり、同時に多数の動物を飼育しているので、個体管理よりも群管理が重要。特に感染症の予防が大切。そのためにシェルターメディシン(シェルターでの特殊な獣医療)が生まれた。

●シェルターメディシン

- 群管理には明確な目標(動物の快適性を上げる・疾患予防・譲渡率上昇・安樂死率減少・引取り数減少等)を設定し、実証に基づき判断・治療する。限られた予算の中で現場に合った処置

をする。

●群管理は、群全体を踏まえた大きな視野で判断する。個々の重篤度と群全体の重篤度は別問題。

群管理では予防第一。感染症対策には負傷・罹患動物にもワクチン接種し、衛生管理、ストレス管理に力を注ぐ。

猫のウイルス性鼻炎や問題行動の下痢や問題行動の多くはストレス

所の譲渡を促進する。

●猫にとってのシェルターとは

怖い・逃げたい・隠れたいところであり、いやな気分になると具合が悪くなる。特に犬と同じ部屋は恐怖。

具合の悪い猫が多くなると、猫にとって苦痛・医療費がかかる・スタッフの時間も奪われる・譲渡も進まなくなる。

スタッフもストレスという悪循環が起ころ。

猫が病気にならないよう配慮や、一時預かりボランティアなどのボランティアの活躍が効力を發揮する。

●猫にストレスをかけないために

- 犬と違う場所に収容・隠れ場所やプライバシーを提供・最初はあんまり干渉しない・シャイな子はなるべくそつとしておく。
- 新しい環境に慣れるのに約2週間かかる。最初の1~3日間の食欲やストレス具合でその後の病気にかかるかどうかが変わってくる。子猫の一時預かりは24時間以内にボランティアに預ける。
- ケージの掃除は、汚れたところだけをふき取るスポットクリーニングにして、汚れていなければタオル・ベッドはずつと一緒。トイレスはなるべく小さく、砂も少なく。
- 猫の病気の多くはストレス。また、世話をしている人が媒介して猫に病気をうつすことが多い。

●犬の不安が強い

- 固まる(筋肉がこわばる)、逃げようとする、逃げられないと思ったら攻撃することもある、目は見開く(白眼が強調されること)。
- 行動を観察するには全身を観察すること。特に全身の緊張感に注目する。

●猫のストレスサイン

- あえぎ・足裏にあせをかく・よだれ・食欲の変化・過剰なグルーミング・筋肉が強ばる・震える・鳴く・隠れようとする・寝たぶり(固まる)

●犬も猫もストレスが過度になると

- 何もできなくなる、危険回避の行動が起こる。
- Flight 逃げる・Fight 開う
- 3つの F (Freeze—固まる・

●ストレスの臨界点や現れ方は個体によつて違う

- 生まれ持った素因・育つた環境やこれまでの経験・現在の環境・人の対応に影響される。
- 活動を与えるようなエンリッヂメント(刺激を与える)

の問題行動が増し、病気よりも譲渡率低下の原因になる。

譲渡率を上げるには、問題行動を起こさせないように、ストレスを発散させ、基本的なしつけをし、正しい社会化をする。かわいく見せるために、グルー

ミングも。

●ボランティア注意事項

・病原体を運ばない・咬まれない・引っかれない・怪我をしない。動物にどうストレス源とならない。

・不安な猫に対する環境エンリッヂメント(安全安心を提供できるエンリッヂメント)

シェルターにおける行動学入門

●講師・水越美奈先生



●環境マネージメント

環境の音・人の出入り・他に動物がいる」ことをどのように緩和して可能な限り動物が安心感を得ることができるよう環境を作れるか。

●ストレスで起る変化(犬)

食欲の変化・毛が抜ける・フケが出る・足裏に汗をかく・あえぐ・よだれが多くなる・筋肉がこわばる・震える・集中でききない・なく・過剰なグルーミング等

●ストレスで起る変化(犬)

食欲の変化・毛が抜ける・フケが出る・足裏に汗をかく・あえぐ・よだれが多くなる・筋肉がこわばる・震える・集中でききない・なく・過剰なグルーミング等

●シエルター内の行動学

なぜ行動学の知識が必要か?—動物のストレスを知る(ストレスから疾患・問題行動)・姿勢や行動を読み取る(ボランティアを守る・安全なハンドリング・環境マネージメント(環境エンリッヂメント)・動物福祉につながる)・譲渡

問題行動)・姿勢や行動を読み取る(ボランティアを守る・安全なハンドリング・環境マネージメント(環境エンリッヂメント)・動物福祉につながる)・譲渡

●シエルターにおける社会化

シエルターという空間は限られた一般の家庭とは全く異なる環境(音・人・周囲)であり、動物がシエルターに来る前の環境から問題がある場合も多いことを認識する。

●社会化期

シエルターという空間は限られた一般の家庭とは全く異なる環境(音・人・周囲)であり、動物がシエルターに来る前の環境から問題がある場合も多いことを認識する。

●社会化期

好奇心旺盛で、周囲の様々なものに慣れやすい時期。8週令を過ぎると次第に新奇刺激を避けようとする行動が発現する。

●社会化期

不安の軽減・不安を軽減するといわれているサブリメンント

環境刺激・外を見ることができるもの

らしの良い高い場所・映像の提供・社会的な刺激・人との交流・暇つぶし・給餌エンリッヂメント・遊び時間の提供

・不安な猫に対する環境エンリッヂメント(安全安心を提供できるエンリッヂメント)

・遊び時間の提供

●社会化的社会化

狹義の社会化—感受期(特定の経験が正常な発達を成し遂げるために必要)という発達段階

●社会化的社会化

広義の社会化—馴化(社会の様々なもの、ことに慣れる)

●社会化的社会化

いろいろな人、生活、外の刺激、様々なものに慣らす。

●社会化的社会化

いろいろな人、生活、外の刺激、様々なものに慣らす。